

平成 28 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

# 平成28年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・文武両道を極めるために、主体的・能動的に学習及び課外活動に取り組む生徒の育成を図る。
- ・正しい情報の発信に努め、地域に開かれた学校から、世界に向かって扉を開け、グローバルな人材の育成を図る。

## 学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・基礎と基本の充実を図り、学力向上のための基盤をつくるために朝学習(始業前の時間の活用)に取り組む。 ・自ら学ぶ意欲とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図り、めまぐるしく変化する時代に対応する為に、アクティブラーニング等の視点からの授業改善に取り組む。 ・市教育委員会の学力向上事業を活用し、外部講師等の招聘により、さらに補習の補填を行う。 ・特別な支援を必要とする生徒の情報を共有し、一人ひとりを大切にした指導を行う。	・習熟度別あるいは選択科目の増加により学年をまたがる時間割となり教科会の重要度が上がる。 ・計画的な研究授業を行い、指導案の検証を行うことでよりよい授業の実施に向けて学校全体で取り組む。 ・アクティブラーニングを学校の分掌の一つとして特化し研究する必要性がある。 ・部活動と補習の選択を生徒にさせることに対し課題が残る。 ・特別支援教育の研修を計画的に実施し、特別支援教育に対して知識と技術を身に付ける。 ・生徒の自主性を育てきっていない。		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・一人ひとり生徒が、それぞれの目標を持って生き生きと活動できる環境を作るために、生徒の実態を的確に把握し、多面的な生徒理解に努めるために 各種アンケートを活用する。 ・カウンセリング委員会を定期的に実施し、生徒の情報を共有することにより、早め早めの対応を心掛ける。 ・人権尊重の精神に徹し、偏見と差別の本質を正しく捉え、その解決に取り組む意欲を持つ人間の育成に努める。 ・教育活動全体を通じてキャリア教育に取組み、自己の将来を描き、学ぶこと・働くこと・社会の中での自分を思う事が出来るように、計画的な進路ガイダンスを実施する。	・アンケートの内容分析を行い、その結果を積極的に授業等の日常教育活動に反映させる。 ・一人ひとりの教員が、生徒観察力を高め、生徒の変化の様子を見抜く力を身に付ける。 ・計画的な生徒指導に関する研修を積極的に行っていく。 ・年間計画の見直しや指導の改善を図るため、校内の推進体制を整える。 ・カウンセラーと連携し、生徒の日常生活における変化に気を配り、校内教育相談体制を更に充実させる。 ・教員自身がこころにゆとりを持って、しっかりと生徒と向かう。 ・就業、就労先の情報収集・新規開拓や大学などの特色の把握に努め、生徒・保護者への積極的な情報提供を行っていく。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
・学校保健委員会の定期的な開催により、生徒の家庭状況の把握に努め、連携を密にする。特に朝食を摂っていない生徒についての把握に努める。 ・食に関する指導の年間指導計画を作成し、教育活動全体を通じて、取り組む。 ・新体力テストの実施、経年データ等の分析により、体力や運動能力を客観的に把握し、自己の体力の向上を図らせる。	・担任、学年を越えて必要な生徒情報を共有し生徒の家庭での状況等も把握するように務める。 ・家庭科において調理実習や食材の栽培などの体験活動を取り入れ、より実践に即した指導を充実させる。 ・体育の授業や部活動などの体育活動においては、生徒の技能や体力に応じた科学的指導を行う。 ・適切な健康観察や休息の実施、定期的な施設用具の点検などを行い、安全の確保に細心の注意を払う。 ・特に食育に関しては、学校と家庭が連携して取り組まないと効果が期待出来ない。		

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通じて安全教育を行う。交通マナー指導、特に自転車の交通ルール指導、道路交通法厳守や自転車保険の加入の必要性を徹底指導する。</li> <li>・学校安全委員会等で校内施設の安全点検及び、危険箇所の早期発見・修復に努める。</li> <li>・災害から自らの身体生命を守るために、日常の心がけを啓発し、また、総合避難訓練や救急救命講習会を通じて、その能力を付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の自転車のマナーの向上は見られるが、周囲の大人も含めた国民的自転車マナーの向上運動が必要と思われる。</li> <li>・学校から離れた場所でのマナー遵守が必要。</li> <li>・車や単車の動きにも注意して、今後警察等しかるべき機関と連携して交通安全のさらなる充実を図っていく。</li> <li>・「学校防災マニュアル」を踏まえ、災害防災マニュアルを不断に見直していく。</li> <li>・地域と連携した実践的な防災訓練を更に充実したものにしていく。</li> </ul>		

<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間を設けて、教科研究会の開催や、授業アンケートの結果を踏まえ、授業改善を図る。</li> <li>・自主的、自発的な活動で、個性を伸ばし、好ましい人間関係を育てるといふ部活動の意義を再認識し、対話を重視した指導を行う。</li> <li>・ホームページや各種学校発行の「便り」を駆使して、積極的に情報の提供を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間だけでなく研究授業に各教科が取り組んでいく。</li> <li>・生徒の様々なニーズに対して、学校としての「是々非々」の筋を一本通して、取り組みたい。</li> <li>・学校ホームページの更新を適宜行い情報の公開・発信を積極的に行うために、専門の技術を持ち、熱意のある人材を分掌として配置する。</li> </ul>		

<b>教育目標</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間尊重の精神に徹し、一人ひとりを大切に人間を育成するために生徒が相談しやすい環境づくり、いじめ、体罰の根絶をめざす。</li> <li>・真理を愛し、文化の創造と発展に寄与するため、国際感覚を養い、多面的な視点を養うことをめざす。</li> <li>・個性豊かにして創造性、自主的精神に富んだ人間の育成をめざし、特別支援教育にも理解を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標への理解及び達成へ向けた取組に個人差がある。</li> <li>・日々の教育活動に、教育目標を反映させなければならない。</li> <li>・始めに進学数値目標があるのではなく、人格の形成を目指す教育の結果として、大学等上級学校への進学数値が上がるようにしたい。(大学進学率を目的ではなく、結果として)</li> <li>・異校種交流をすすめて、特別支援教育への理解を深めたい。</li> </ul>		

<b>研究テーマ(特色ある学校づくりの推進)</b>		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動をさらに活性化させ、生徒の自主性を育てることにより、何事にも能動的に取り組む態度を養う。</li> <li>・規律ある生活の中で、本当の個性を発見し、社会性を身に付け「人間力」の向上を図る。</li> <li>・補足的・発展的な学習を取り入れ、「勉強がわかるようになる」ことにより、さらに学問に興味を持ち、自主的な学習へと繋がることを目指す。</li> <li>・それぞれの教科において、研究者としての立場も見失わず、学問の探求に寄与するための校内研究会を充実させる。</li> <li>・学校経営方針を年度末に教員に周知し、共通理解のもと、学校運営を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業を活性化させ、研究協議の時間を持つことにより、日々の授業にスパイスを添加し、授業力の向上を図っていく。</li> <li>・部活動においては、全教職員の努力と協力のもと、好成績を収めていると自己評価している。</li> <li>・「文武両道」の本校の特色づくりのために、勉学と部活の時間配分・調整が課題である。</li> <li>・「研究紀要」等の作成により、教員相互の研究や教材開発に意欲的になるような仕組みを考えたい。</li> </ul>		

## 学校関係者評価

- |          |                     |                        |
|----------|---------------------|------------------------|
| ※ 評価Ⅲの基準 | 4: よく取り組んでおり、成果が大きい | 3: 熱心に取り組んでおり、今後が期待できる |
|          | 2: 取り組んでいるが成果が十分でない | 1: 取組が不十分である           |

学校関係者意見等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる ★学力向上の取組について、年々進学率も伸び、学校上げて頑張っている様子が伺えるが、教師主導から、生徒の自主的な取組となるような工夫をされてはどうか。 ★入試が全てではないですが、熱心に取り組んでおられることは十分理解できます。 ★進学率の向上は良い学校づくりの一つの目安ですが、目的ではない。教員の意識改革も必要ではないか（これは良い意味で次のステージに移ってもらいたい願いからの意見です）。	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る ★人間の総合力を高めるような意識を学校教育活動全般にわたって持たせるような取組の工夫をされたい。 ★あいさつ励行を基本とし道徳教育も良くできていると思われます。特に市政100周年はずばらしかったと思われます。 ★担任、学年、養護教諭を始めとして、学校全体で生徒に係わっていると思うが、カウンセラーの派遣回数が少ないのではないか。 ★いろいろなタイプの生徒がおり、それぞれに対応するのは難しいと思うが、先生方のがんばりに期待します。	3.5
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む ★硬式野球部をはじめ多くのクラブが全国大会に出場するなど、今年は大いに活躍された年だと思われます。 ★食育は家庭の問題や様々な要因があり、学校が入り込むのに難しいかも知れないが、保健だより等で「朝ごはん」等の有用性についての啓発を続けてもらいたい。 ★校内での生徒の動きがキビキビとしており、体力・気力が充実した生徒が多いと実感できる。	3.5
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る ★自転車通学の事故件数も減っています。安全教育に熱心に取り組まれた成果だと思います。 ★学校周辺ではマナーも守られていますが、遠く離れた場所あるいは休日などでは、必ずしも守られてはいないという越えも聞く事があります。心の教育にも連動させて、更なる規範意識の向上に取り組んでください。 ★予期せぬ災害が発生した場合に速やかに対処出来るよう、学校の教育活動全体の中での取組が必要ではないか。 ★市尼も阪神淡路第震災で校舎が全壊した経験から、地域との連携した避難訓練も検討して下さい。	3.5
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む ★部活動の一層の飛躍を期待する。 ★教員間の意見交換を活発にして、様々な角度からの見方を参考にして、地域に愛される市尼の部活動に育ててもらいたい。 ★地元の経営者や産業人の職業観や人生観等の授業をとりいれれば如何ですか。 ★公開授業週間も取り入れていると聞きます。良いことです。いろいろな目にさらされる事により、今まで気付かなかった事に気付く事もますます。積極的に学校開放を行ってもらいたい。	3
■教育目標 ★教育目標の教員への周知・徹底はなされているのか。他の学校でも同じような傾向だが、学期始まりの職員会議等で年3回くらい確認しなければ、浸透しないのではないか。 ★生徒が相談しやすい環境づくりの為に、先生方の言葉使いも考慮が必要ではないか。	3.5
■研究テーマ ★公開授業、教師授業力向上のより一層の取組を期待します。 ★体育科の卒業論文発表会の案内状をいただければ、聴かせて聞かせて頂きたいと思ひます。 ★先生方も教育者としてはもちろん、研究者としての学問・教材等の研究に取り組めるような心のゆとりを持って欲しい、期待している。 ★市尼の特色は、国際類型なのか、文武両道なのか？整理する必要はないのか。 ★市尼の文武両道は、生徒個人の中での文武両道を目指すのか、学校全体で文武両道を目指すのか、ブレずに頑張ってもらいたい。	3
評価項目 (A: 優れている B: 適切である C: おおむね適切である D: 要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B